

テキストチェックゼミ 第7回

～全範囲～

TAC監査論講師
岡田 健司



ガイダンス～テキストチェックゼミの目的～

■最終的な目的

「体系的に監査論を理解するためのヒントと勉強方法を提供」

■このテキストチェックゼミの主眼(受講する意義)

1. テキストの意味内容(深い意味)を整理する
2. テキスト間・論点間のつながりを明示する
3. 他の受講生のレベルを知る

※注意点※

最大限効果を高めるために、**予習を前提**とし（但しガチの暗記不要）、かつ、2時間という限られた時間での進行であるので**全ての論点を網羅したものではない**点に注意してください。



ガイダンス～監査論は何を学習する科目か～

■何を学習しているのか

1. 社会的信頼に足る監査を実施するための「しなければならない」ルール
2. 上記の趣旨、目的、ルール化に至った理論的背景

■このテキストチェックゼミとの関連

1. 殆ど取りあげません(一部例外あり)
2. こちらをメインにとりあげます

※補足※

1. のルールの多くは法令基準集に掲載されています。
したがって、論文監査論学習上、1. については法令基準集の検索能力を高める、2. については日頃から考える癖をつける、重要なものは覚えるという学習方針となります。



ガイダンス～今後の進行（予定）～【第2回目の実施を受けて更新】

	日程	主な内容（学習テーマ）	該当図表	テキストの範囲	該当頁
1	1月8日	ガイダンス、第1章（財務諸表監査総論）及び第2章（監査の実施）から主に監査の必要性、財務諸表監査の目的・前提・機能、監査主体の条件、監査実施の全体像、監査意見形成の論理	図表1	第1章～第2章第2節	1頁～51頁
2	1月22日	監査論1位の合格者に聞こう！&第2章（監査の実施）から主に監査手続、監査証拠（確認まで）	図表2	第2章第2節	52頁～63頁
3	2月12日	第2章（監査の実施）から主に、監査証拠（立会から）内部統制、試査、リスク・アプローチ、リスク評価と対応、特検リスク、会計上の見積り、監査上の重要性	図表3・4	第2章第3節～第5節	64頁～128頁
4	2月26日	第2章（監査の実施）から監査計画、グループ監査、経営者確書、第3章（監査報告）	図表5・6	第2章第6節～第8節、第3章	129頁～212頁
5	3月12日	第4章（個別論点）から主に不正等への対応、継続企業、監査役等とのコミュニケーション、KAM、後発事象、契約の新規の締結及び更新、監査人の交代、その他の記載内容	図表7	第4章	213頁～284頁
6	3月26日	第5章（保証業務）から主に四半期レビュー、内部統制監査、特別目的の財務諸表に対する監査	－	第5章	285頁～352頁
7	4月16日	第6章（監査制度）から主に法令違反等事実、監査人の独立性、概念的枠組みアプローチ、守秘義務の解除、監査基準の改訂の歴史その他横断的に論点を整理	－	第6章含む全範囲	全範囲

※ 予習を前提とします。

※ 当日は2023年度上級テキストと（可能であれば）法令基準集をご用意ください（ゼミ中に両方みていただいて構いません。）。



第7回(主な学習テーマ)

■全範囲

テキスト全体



第7回目（横断的な整理）

Q7－1

「二重責任の原則を取り扱ったテキストの該当箇所、QA、答練の内容を
列挙してみてください。」



第7回目（横断的な整理）

Q7－1

「二重責任の原則を取り扱ったテキストの該当箇所、QA、答練の内容を列挙してみてください。」

A7－1 該当テキスト頁（例）：26頁、219頁、235頁、237頁、311頁など

- QAでは、Q1-10、Q2-13-2（不正）、Q2-13-3（GC）、Q7-20（情報提供機能）などで取り扱っています。
- 答練では、監査の目的との関連性（基礎答練①）、内部統制監査（応用答練②）で取り扱っています。
- 今後はこの問題のようにテキストを起点としてQAの内容や答練の内容を思い出せる（想起できる）ような復習を心がけましょう。



第7回目（横断的な整理）

Q7-2

「上場会社の財務諸表監査を前提として経営者に求められることを述べてください。」



第7回目（横断的な整理）

Q7-2

「上場会社の財務諸表監査を前提として経営者に求められることを述べてください。」

A7-2 該当テキスト頁:27頁など

- ①適正な財務諸表を作成・開示、②有効な内部統制を整備運用、③監査人の監査に協力
- 上場会社→多数広範な利用者を前提とした一般目的財務諸表→適正表示の枠組みという整理です。



第7回目（横断的な整理）

Q7－3

「財務諸表監査における不正への対応について経営者に求められることを述べてください。」



第7回目（横断的な整理）

Q7－3

「財務諸表監査における不正への対応について経営者に求められることを述べてください。」

A7－3 該当テキスト頁：27頁、219頁など

- ①不正を原因とした重要な虚偽表示のない適正な財務諸表を作成・開示、②不正を原因とした重要な虚偽表示を防止・発見・是正するための有効な内部統制を整備運用、③不正対応を行う監査人の監査に協力
- Q7-2の解答を発展させて、不正に焦点を当てた解答としましょう。



第7回目（横断的な整理）

Q7-4

「財務諸表監査における不正への対応について監査人に求められることを述べてください。」



第7回目（横断的な整理）

Q7－4

「財務諸表監査における不正への対応について監査人に求められることを述べてください。」

A7－4 該当テキスト頁：27頁、219頁、225頁など

- 全体としての財務諸表に不正を原因とした重要な虚偽表示がないことについて合理的な保証を得ること
- 経営者による内部統制の無効化リスクを考慮すること
- 誤謬を発見するための手続が必ずしも不正を発見するのに有効ではない可能性を認識すること
- 監査の全過程を通じて職業的懐疑心を保持すること（状況に応じて発揮、高めること） など



第7回目（横断的な整理）

Q7－5

「財務諸表が適正であるといえるための要件について、以下の語句を埋めてください。

『全体としての財務諸表に(A)がないことについて(B)を得ること』



第7回目（横断的な整理）

Q7－5

「財務諸表が適正であるといえるための要件について、以下の語句を埋めてください。

『全体としての財務諸表に(A)がないことについて(B)を得ること』

A7－5 該当テキスト頁：22頁

- (A)重要な虚偽(の)表示、(B)合理的な保証
- それぞれの意味合いを改めて整理しておいてください。



第7回目（横断的な整理）

Q7－6

「では、『(A: 重要な虚偽の表示)がない』とは具体的にどういうことでしょうか」



第7回目（横断的な整理）

Q7－6

「では、『(A:重要な虚偽の表示)がない』とは具体的にどういうことでしょうか」

A7－6 該当テキスト頁:171頁

- テキスト171頁の3つの要件のとおり。



第7回目（横断的な整理）

Q7-7

「では、『(A:重要な虚偽の表示)がある』とは具体的にどういう状態で、その場合にはどのような監査報告が求められるでしょうか(適正表示の枠組みを前提とします。)」



第7回目（横断的な整理）

Q7-7

「では、『(A:重要な虚偽の表示)がある』とは具体的にどういう状態で、その場合にはどのような監査報告が求められるでしょうか(適正表示の枠組みを前提とします。)」

A7-7 該当テキスト頁:171頁、200頁

- テキスト200頁のとおり。
- 意見に関する除外を付した限定付適正意見もしくは不適正意見を表明します。



第7回目（横断的な整理）

Q7－8

「もし、継続企業の前提に関する事項の注記が必要な状況において当該注記がない場合、どのような監査報告になると考えられるでしょうか（適正表示の枠組みを前提とします。）」



第7回目（横断的な整理）

Q7－8

「もし、継続企業の前提に関する事項の注記が必要な状況において当該注記がない場合、どのような監査報告になると考えられるでしょうか（適正表示の枠組みを前提とします。）」

A7－8 該当テキスト頁：171頁、194頁、200頁、243頁、

- 少し難しい応用問題です。**不適正意見を表明**することになると考えられます。
- なぜならば、利害関係者の意思決定に影響を与えられる重要な注記がそもそもないからです。（テキスト194頁【研究】②広範性の例示のc）に該当）



第7回目（横断的な整理）

Q7－9

「では、そもそも継続企業の前提に関する事項の注記が必要な状況とはどういう状況でしょうか」



第7回目（横断的な整理）

Q7－9

「では、そもそも継続企業の前提に関する事項の注記が必要な状況とはどういう状況でしょうか」

A7－9 該当テキスト頁：235頁

- テキスト235頁の(3)及び(※3)のとおり。必ず暗記が必要です。
- テキチェQ4-11でも取り扱っていましたが、きちんと思い出せましたか。



第7回目（横断的な整理）

Q7－10

「監査人が財務諸表監査の結果に責任を負う場合について『正当な注意』、『虚偽表示』という用語を用いて説明してください」



第7回目（横断的な整理）

Q7－10

「監査人が財務諸表監査の結果に責任を負う場合について『正当な注意』、『虚偽表示』という用語を用いて説明してください」

A7－10 該当テキスト頁：37頁

- （解答例）職業的専門家としての**正当な注意**を払わず、**重要な虚偽表示を看過**した場合。
- **職業的懐疑心**、あるいは、**監査調書**（136頁）というキーワードを思い出せたらよりベター！



第7回目（横断的な整理）

Q7-11

「リスク評価手続と監査計画との関係性について述べてください」



第7回目（横断的な整理）

Q7－11

「リスク評価手続と監査計画との関係性について述べてください」

A7－11 該当テキスト頁：130～132頁

- （解答例）監査計画を策定するためにリスク評価手続を実施する必要があるという関係です。
- 企業及び企業環境、内部統制システム、適用される財務報告の枠組みを理解して重要な虚偽表示リスクを識別・評価したうえで重要な虚偽表示を看過しないためのリスク対応手続を立案するためのものが監査計画です。
- TACのテキストだとこの関連性の記述が乏しいのでしっかり関連付けて復習してください。



第7回目（横断的な整理）

Q7-12

「企業の経営者が利益を過大に計上しようとするときに考えられる手法について、仕訳の形式で3点指摘してください」



第7回目(横断的な整理)

Q7-12

「企業の経営者が利益を過大に計上しようとするときに考えられる手法について、仕訳の形式で3点指摘してください」

A7-12

- 論文対策講義第6章。
- ①収益の過大計上、②費用・損失の過少計上、③資産の評価の過大評価ですから、①資産××/収益××、②~~費用・損失××/負債××~~、③~~費用・損失××/資産××~~です。



第7回目（横断的な整理）

Q7-13

「では、Q7-12の解答を踏まえると、①資産について相対的に重要と考えられる監査要点を2点、②負債について同様に1点、③収益について同様に2点、④費用・損失について同様に1点指摘してください」



第7回目（横断的な整理）

Q7－13

「では、Q7-12の解答を踏まえると、①資産について相対的に重要と考えられる監査要点を2点、②負債について同様に1点、③収益について同様に2点、④費用・損失について同様に1点指摘してください」

A7－13

- ①の資産については、「**実在性**」、「**評価の妥当性**」、②の負債については「**網羅性**」、③の収益については、「**実在性(発生)**」、「**期間帰属の妥当性**」、④の費用・損失については「**網羅性**」が重要であると考えられます。
- ④についてもう一点挙げるとすると「**期間帰属の妥当性**」が適切だと考えられます。



第7回目（横断的な整理）

Q7－14

「財務諸表項目レベル（アサーション・レベル）の重要な虚偽表示リスクの識別・評価はどのように行うか、できるだけ丁寧に述べてください」



第7回目（横断的な整理）

Q7-14

「財務諸表項目レベル（アサーション・レベル）の重要な虚偽表示リスクの識別・評価はどのように行つか、できるだけ丁寧に述べてください」

A7-14 該当テキスト頁：92頁、105頁、QA5-3、QA5-6参照

- ~~企業及び企業環境、内部統制システム（注）、適用される財務報告の枠組みを理解するためのリスク評価手続を実施します。そのうえでは事業上のリスク等を考慮します。~~
- ~~その過程で、主観性、複雑性、不確実性といった固有リスク要因も考慮し、虚偽表示の発生可能性とその影響の度合い~~
~~双方に合理的な可能性があり固有リスクが識別された財務諸表項目を財務諸表項目レベル（アサーション・レベル）の重要な虚偽表示リスクとして識別します。そのうえで、固有リスクを評価します。~~
- ~~その後、内部統制システムを考慮し、統制リスクを暫定的に評価します。また運用評価手続を実施して統制リスクを確定します。~~

（注）実施後の訂正について

テキストチェックゼミ実施後となり恐縮ですが、一つ目の●に内部統制システムを含めているのは前後の文脈から適切ではなかったので資料の訂正を行います。
申し訳ございませんが、資料の訂正、差し替えをお願いします。
なお、この訂正に関連する内容についてはQA4-9をご参照ください。



第7回目（横断的な整理）

Q7－15

「会計上の見積り項目のリスク評価にあたって一般に考慮することが重要だと考えられる固有リスク要因を3つ列挙してください」



第7回目（横断的な整理）

Q7－15

「会計上の見積り項目のリスク評価にあたって一般に考慮することが重要だと考えられる固有リスク要因を3つ列挙してください」

A7－15 該当テキスト頁：92頁、119頁

- 一般的に①**複雑性**、②**主観性**、③**見積りの不確実性**の3点です。
- テキチェQ2-44でも取り扱っています。



第7回目（横断的な整理）

Q7－16

「会計上の見積り項目の監査にあたって監査上重要な検討対象は、見積りの①見積手法、②重要な仮定、③データといわれます。

退職給付引当金を例にとつて①②③の具体的内容を列挙してください」



第7回目（横断的な整理）

Q7－16

「会計上の見積り項目の監査にあたって監査上重要な検討対象は、見積りの①見積手法、②重要な仮定、③データといわれます。

退職給付引当金を例にとつて①②③の具体的内容を列挙してください」

A7－16 該当テキスト頁：122頁

- 例えば、①退職給付債務の発生額の算定にあたり「期間定額基準」、「給付算定式基準」のいずれを採用するかどうか、②割引率、退職率、死亡率など、③人事データ（現在何歳、いつ入社、役職など）や給与などが挙げられます。



第7回目（横断的な整理）

Q7-17

「上場会社の監査において、不正を原因とする重要な虚偽表示を発見した場合に監査人に求められる対応について述べてください」



第7回目（横断的な整理）

Q7－17

「上場会社の監査において、不正を原因とする重要な虚偽表示を発見した場合に監査人に求められる対応について述べてください」

A7－17 該当テキスト頁：132頁、222頁、223頁、362頁、QA9-1参照

- 指導的機能を発揮し、経営者に当該重要な虚偽表示を修正するよう求めます。
- 監査及び監査報告に及ぼす影響を評価します（監基報240.36）。具体的には、不正リスクの見直し、監査計画の見直し等が必要ではないか、他の類似する不正がないかなどを検討します。
- 状況に応じて経営者又は監査役等とコミュニケーションを行います（監基報240.39、40）。
- 法令違反等事実発見時の対応に沿って対応します。



第7回目（横断的な整理）

Q7－18

「上場会社における監査役等とのコミュニケーションについて、監査役等側にたってその必要性について述べてください」



第7回目（横断的な整理）

Q7－18

「上場会社における監査役等とのコミュニケーションについて、監査役等側にとってその必要性について述べてください」

A7－18 該当テキスト頁：248頁、249頁、372・372頁、テキチェQ4-16参照

- 会計監査人による監査結果を利用することができるかどうかの判断にあたって必要といえます。
- そのために、監査人の独立性、品質管理システムの整備・運用状況等を伝達する必要があります。
- さらに、監査人からさまざまな情報を得ることで、自らの責任、すなわち、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の遂行を監視する（＝財務報告プロセスを監視する）責任を適切に果たすことに繋がります。



第7回目（横断的な整理）

Q7－19

「現在『財務諸表とその他の記載内容との間の重要な相違』について、相違の有無にかかわらず必ず監査報告書に所定の区分を設けて報告しなければならないとされています。

その理由について説明してください」



第7回目（横断的な整理）

Q7－19

「現在『財務諸表とその他の記載内容との間の重要な相違』について、相違の有無にかかわらず必ず監査報告書に所定の区分を設けて報告しなければならないとされています。

その理由について説明してください」

A7－19 該当テキスト頁：281頁、QA7-22-1参照

- 財務諸表とその他の記載内容との間の重要な相違の有無についてはそれ自体が利害関係者にとって重要な情報であると考えられるからです。
- もし相違があった場合には専門的な知識を持たない利害関係者はいずれに原因があるかどうかを判断することができません。そこで当該情報を記載しなければ財務諸表、監査報告書、ひいては監査人が行う財務諸表監査の信頼性に疑念を有するおそれがあります。そのために必ず「その他の記載内容に関する事項」区分を設けて所定の事項（283頁）を記載することとされました。



第7回目（横断的な整理）

Q7－20

「監査法人の品質管理について新たにマネジメント・アプローチが導入されましたが、その内容について品基報1に沿って説明してください」



第7回目（横断的な整理）

Q7－20

「監査法人の品質管理について新たにマネジメント・アプローチが導入されましたが、その内容について品基報1に沿って説明してください」

A7－20 QA10-1参照

- 監査法人の品質管理についても、**リスク・アプローチによる品質マネジメント・アプローチ**が導入されました。
- 大きくは、①**品質目標の設定**、②**品質リスクの識別**、③**品質リスクに対処するための方針及び手続の整備・実施**という3段階の内容に分かれます。
- 詳しくは、QA10-1、10-2、今後実施される論文直前フォロー講義を参考にしてください。



いままでご参加いただき、
ありがとうございました！これからも応援しています。

絶対に合格して
会計士になろう！ 絶対合格宣言！

